

「バス危機突破 総決起大会」の開催について

日本バス協会は、令和6年11月6日(水)午後、自由民主党本部8階ホールにおいて「バス危機突破 総決起大会」を開催しました。

当日は、全国からバス業界約300名が集結するとともに、バス議員連盟を中心に60名の自民党国会議員の先生方や、国土交通省幹部の皆様にもお越しいただきました。

バス事業は、コロナ禍により極めて大きな打撃を受け、さらには燃料高や人手不足にも直面し、危機的な状況にあることから、路線の維持や人手不足、自動運転など各種対策への支援を強く求めました。

清水会長は冒頭の挨拶で、「バス事業は非常に苦しい状況にある。地方を守る施策が進められているが、バスこそが地方を守っていく覚悟なので、そのための支援を何とかお願いしたい」とし、

【深刻な運転士不足の解消】

【自動運転バスの本格運行に向けた支援大幅強化】

【EVバスなどの普及で環境へ貢献】

【完全キャッシュレス化の実現】

の4項目を大会の決議として掲げ、ご出席の先生方へ支援を訴えました。



(清水会長挨拶)



(逢沢会長ご挨拶)

続いて、バス議員連盟会長の逢沢一郎先生からは、「バスは言うまでもなく国民の皆様の移動の自由の最後の砦であり、バス事業者は懸命な努力を続けておられる。バス議連としてもしっかりと事業を支えていく、課題にしっかり取り組んで行く、ということをお約束したい。」とのご挨拶をいただきました。

御来賓の先生方からは、まず自由民主党・幹事長の森山裕先生から、「内閣は日本創生をしっかりと進めることを掲げており、地方から新しい日本を作ることが政策の1つである。その実現のためにも、バス事業者の皆様を支えるため、皆様の要望事項について真摯に対応させていただき、総決起大会をやってよかったという結論を出せるように微力を尽くしてまいりたい。」とのご挨拶を、また、総務会長の鈴木俊一先生からは「バスは地域になくってはならない社会インフラでありながら、地域での廃止や減便が起り大変深刻に捉えている。今のバスの危機的な状況の原因がいろいろある中でも、一番は運転者の確保であると感じている。また、自動運転は地方にこそ必要であり、私自身の足元の経験を踏まえ、皆様の信用に足る取り組みを進めていきたい。」との挨拶をいただき、さらに、政務調査会長の小野寺五典先生からは、「現在、国会の経済対策を取りまとめる仕事をしており、いただいた様々な支援の要望について、どのように予算として積み上げられるか財務省とも審議・議論をしていきたい。」との挨拶をいただきました。



(森山幹事長ご挨拶)



(鈴木総務会長ご挨拶)



(小野寺政務調査会長ご挨拶)



(國場国土交通副大臣ご挨拶)

次に、国土交通副大臣の國場幸之助先生からは、「現在、バスは非常に厳しい経営環境に置かれていると認識しており、地域の足を支える公共交通の最後の砦として、バス事業者には日々ご尽力いただいている。この度『バス再興 10年ビジョン』でバス業界の意気込みをまとめられたことを承知している。国土交通省としてもバスを夢のある産業にしていくためにも、必要な支援を着実に進め、皆様の経営をしっかりと支えていき、バス業界に寄り添いながら共に邁進してまいりたい。」とのご挨拶をいただきました。



(清水会長によるガンバローコール)

続いて、出席された国会議員の先生方一人一人から力強い応援のお言葉をいただき、要望事項4項目の大会決議がバス議員連盟事務局次長堀内詔子先生から提案され、満場一致で採択されました。

最後に清水会長の発声によるガンバローコールで総決起大会を終了しました。